



高橋勇夫（たかはしいさお） 農学博士。  
高知県生まれ、長崎大学水産学部卒業。「西日本科学技術研究所」を経て2003年、高知県香南市に「たかはし河川生物調査事務所」を設立。天然アユの資源保全活動に取り組みます。死の川と呼ばれた奈半利川（高知県）をアユ河川に再生するなど、各地の漁協と共に天然アユの復活再生に向けて邁進。著書は「天然アユの本」など多数。友釣り歴はほぼ30年。

齊藤俊二（さいとうしゅうじ）。東京都水産課主任。  
日本大学水産学部を卒業後、東京都に入庁。水産試験場の奥多摩分室で溪流魚を、伊豆大島でサザエなど水産資源の増殖研究に携わり、2013年から多摩川の天然アユ汲み上げ放流事業を担当。アユとの関わりは長く、1985年の大学卒論は、「多摩川のアユ遡上に関する調査」でした。

安永勝昭（やすながまさあき）秋川漁業協同組合組合長。  
神奈川県横浜に生まれ、東京都の秋川沿いで育つ。趣味はアユ釣り。2014年に秋川漁協の組合長に就任。2年で経営を黒字化。今年2017年から民間委託された多摩川の天然アユ汲みあげ放流事業のまとめ役として尽力。モットーは補助金などに頼らない自立した漁協の運営。  
東京都内水面漁業協同組合連合会会長、そして全国内水面漁業協同組合連合会理事を務めています。

林家彦いち（はやしやひこいち）落語家。  
鹿児島県で生まれ育ち、国士舘大学を中退して20歳で初代・林家木久蔵（現・林家木久扇）に入門。33歳の若さで真打に昇進。新作落語で爆笑を誘います。作家の夢枕 獺さんを師匠に世界を釣り歩く。日本では魚と名のつくものはすべて釣りがまくり、釣ってないのは駅弁についている魚型の醤油入れ。